



聖書箇所:マタイの福音書26章36~46節
『ゲッセマネの祈り』

【1】 三人の弟子

- ・ゲッセマネの園 (オリーブ山のふもと)
 - 祈るための「いつもの場所」(ルカ 22:40)
 - 普段との違い: ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人が同伴
 - 「イエスの変貌」(マタイ 17:1-8)にも立ち会った三人
 - 三人はイエスの栄光に輝く姿、威厳に満ちた姿を目撃
 - 三人は神の『これはわたしの愛する子』という御声を聴いた

- ・三人が見たイエスの「ゲッセマネの祈り」
 - 「悲しみの人」の姿
 - 「慕うような見栄えもない」姿
 - 「罪とされた」姿 (『わが父よ、できることなら…』というイエスの声)

▷三人の弟子たちは、栄光に輝く威厳に満ちたキリストと、「見るべき姿も輝きもない」(イザヤ 53:2)苦難のしもべキリスト、両方の目撃者となりました。聖書は私たちにも同じように、キリストの両方の姿を伝えています。

【2】 ゲッセマネの祈り

- ・ゲッセマネの園に向かう前の過越の食事の席でのイエスの発言
 - 「みな、この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です」(マタイ 26:27-28)
 - 「…わたしの契約の血」の意味

- ・イエスが「悲しみのあまりに死ぬほど」(26:38)だった訳
 - 罪のない方が罪人として神のさばきを受ける身へ (参照 II コリント 5:21)。
 - 親密な交わりをもつ「子」と「父」の交わりの断絶

- ・三人の決意と実際の行動
 - イエスの近くで祈りをささげようと願った
 - 睡魔に襲われ眠ってしまった

【3】 「立ちなさい。さあ、行こう。」

- ・イエスの祈りの変化
 - 第一の祈り
 - 第二の祈り
 - 三度目の祈りの後
 - イエスの苦悶に満ちた表情はそこになく
 - 弟子たちへの「立ちなさい。さあ、行こう。」との声掛け

▷私たちが今日、主に祈るべき課題は何でしょうか？